

The background of the slide is a reproduction of Leonardo da Vinci's 'The Last Supper' fresco. It depicts Jesus Christ and his twelve apostles seated at a long table in a room with a grid-patterned ceiling and arched windows. The scene is captured in a moment of dramatic tension as they share their final meal.

# 西洋美術史ゼミ

第13回

ロマン主義・写実主義

発表者 あまずん

# 発表者について

あまずん

Twitter : @quii\_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について  
興味があります。



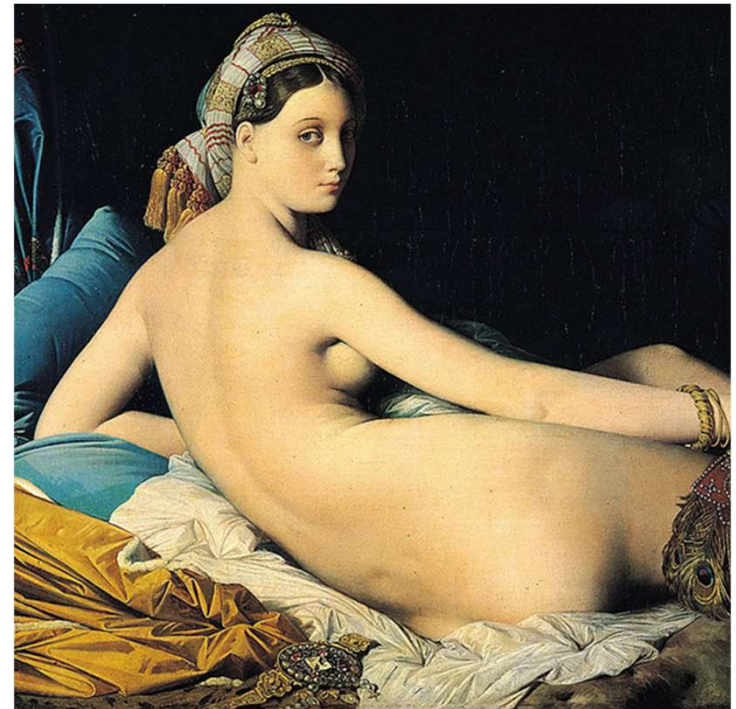
## ゼミについて

- 週1回程度で美術出版社「増補新装 カラー版 西洋美術史」を一章ずつ読み進め、内容をまとめ発表します。
- また、高校世界史に沿う形で当時の出来事についても説明します。
- そのため、世界史と美術史を同時に学ぶことができるため、歴史が好きな方も美術が好きな方も学びを深めることができます。



## 前回の内容

- 19世紀に**フランス革命**が起こりました。身分格差と財政危機を原因とするこの市民革命により、封建的特権が廃止され、また共和制が成立しました。その後**ナポレオン**の台頭により帝政が開始されましたが、周辺諸国からの反発に遭い彼は没落していきました。
- 帝政以前の時代には**新古典主義**が流行し、**思弁的で線的**な絵画が流行しました。



アンゲル 《グランド・オダリスク》

# 本日の内容

世界史について

- 産業革命（事前）
- アメリカ独立戦争（事前）
- ウィーン体制の成立
- 19世紀のヨーロッパ文化

美術について

- ロマン主義・写実主義

# 全体の概略

- フランス革命とナポレオン政治の反動として、復古的な**ウィーン体制**が成立しました。しかし市民は**自由主義・ナショナリズム**の実現を求め、**七月革命**により体制は破綻することとなります。その後フランスでは**二月革命**が起こり、**共和制**が成立しました。
- 新古典主義の反動として、**個人の感情・個性・自由を重視**する**ロマン主義**が勃興しました。また、産業革命による貧富の差への不満から、**現実の生活に美を見出そう**とする**写実主義**が興りました。

# 本日の内容

- **世界史：ウィーン体制のヨーロッパ**
- 世界史：19世紀のヨーロッパ文化
- 美術史：ロマン主義・写実主義

# ウィーン体制の成立：CONTENTS

- ① 概略
- ② ウィーン体制の成立
- ③ ウィーン体制の動揺と七月革命
- ④ ウィーン体制の崩壊



# ウィーン体制の成立：概略

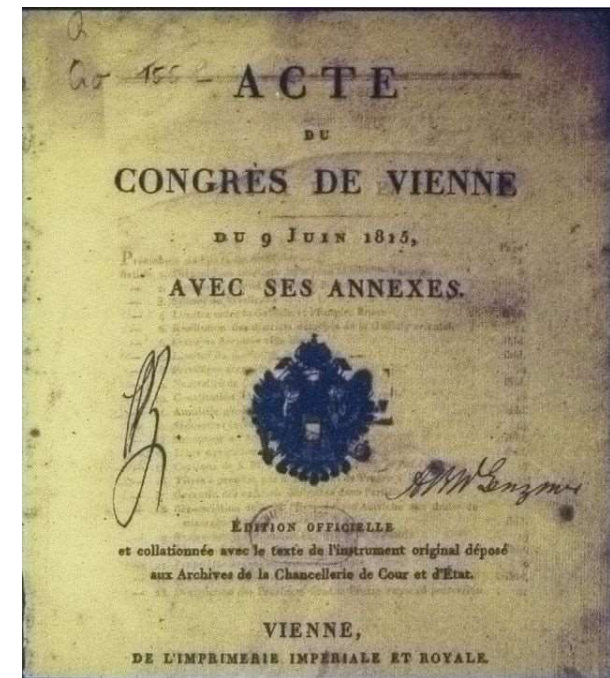
- フランス革命とナポレオン戦争のあと、その反動として**王侯貴族を中心**とする**ウィーン体制**が成立した。
- しかし、復古的・反動的なウィーン体制に対し諸国民は各地で**自由主義・ナショナリズム**の実現を求める運動を起こし、**七月革命**によ体制は破綻した。
- その後、**二月革命**が起こり**共和政**が成立したものの、反動が起こり諸国の自由主義運動は鎮圧された。



ドラクロワ 《民衆を導く自由の女神》

# ウィーン体制の成立

- 1814年9月から、フランス革命とナポレオン戦争（ナポレオンの関わる戦争の総称）による混乱の後処理のために**ウィーン会議**が開かれた。
- 各国の利害が対立し、議会は紛糾した（**会議は踊る、されど進まず**）。しかし、1815年6月にウィーン議定書が調印された。これによってブルボン王朝の復活などが行われ、**王侯貴族を中心とする保守反動体制**である**ウィーン体制**が成立した。



ウィーン会議の条約

# ウィーン体制の動揺と七月革命(1)

- 復古的・反動的なウィーン体制に対し、諸国民は各地で**自由主義・ナショナリズム**の実現を求める運動を起こした。
- フランスでは、ブルボン朝のルイ18世と、次いだ弟**シャルル10世**が反動的な政治を進めていた。1830年、シャルル10世の政治への抗議としてパリの民衆は蜂起し、国王は亡命する（**七月革命**）。



ドラクロワ 《民衆を導く自由の女神》

## ウィーン体制の動揺と七月革命(2)

- その後、自由主義者で知られた**ルイ＝フィリップ**が王に迎えられ、**七月王政**が成立した。
- この革命の影響で、ベルギーがオランダから独立した。ほかにポーランド、ドイツ、イタリアでも反乱が起こったが鎮圧された。しかし、これにより西欧諸国は**自由主義的性格**を強めた。

### • 自由主義

人が何物にも拘束されず幸福と安全のために自由に行動できるようになるべきという思想。

### • ナショナリズム (国民主義)

ある民族や複数の民族が国家を形成し、独立することを目指す思想。

# ウィーン体制の崩壊(1):概略

- 19世紀前半、イギリスにつづいてフランスでも**産業革命**が本格化した。
- これにより人々は古い社会的規制から徐々に解放されたが、新しい社会は未成熟で雇用が不十分だった。これに加えて人口増加による貧民層の拡大や、凶作や不況などの要因により**革命的気運が高まった**。
- そして、1848年に制限選挙を原因として**二月革命**が起こった。



フランス二月革命

## ウィーン体制の崩壊(2)

- 七月王政下のフランスでは、銀行家などの一部の**富裕層に富が集中**しており、選挙権も多額納税者に制限されていた。
- この状況に対する改革を求めたが拒否されたことが二月革命の直接の要因である。発生した民衆蜂起の結果国王は亡命し、**共和政の臨時政府が成立**した。この革命を**二月革命**と呼び、政治体制は**第二次共和制**と呼ばれる。



ヴェルネ 《スルロ通りのバリケード》

## ウィーン体制の崩壊(3)

- 臨時政府では共和主義者が中心だったが社会主義者も入閣していた。しかし有権者は保守的であったため大敗した。
- 1848年に大統領選で**ルイ＝ナポレオン**が当選した。彼は1851年にクーデターを起こし独裁権を握り、翌1852年に皇帝に就任。**ナポレオン3世**と称した（**第二帝政**）。



カバネル 《ナポレオン3世》

# ウィーン体制の崩壊(4)

- 二月革命はヨーロッパ各地に波及し、自由主義・ナショナリズムの運動が高揚した。この状況は**諸国民の春**と呼ばれ、**ウィーン体制の崩壊**とみなされている。
- ヨーロッパ各地で起こった革命は**1848年革命**と総称されているが、この後王権や保守勢力が復権し、**反動体制が成立**した。また、これ以降西欧では**自由主義・民主主義による政治改革**が、東欧では**ナショナリズムによる民族自立**が目標となり、以後それぞれ異なる方向に向かった。



ベルリン三月革命

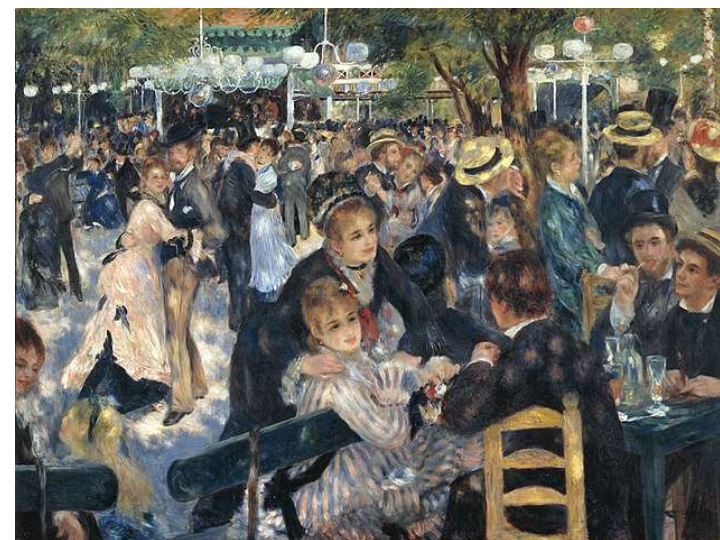


# 本日の内容

- 世界史：ウィーン体制のヨーロッパ
- **世界史：19世紀のヨーロッパ文化**
- 美術史：ロマン主義・写実主義

# 19世紀のヨーロッパ文化：概略

- フランス革命とその社会がもたらした政治的・社会的激変のために、文化の領域においても宮廷文化から**市民文化が主流**となった。
- 市民文化は貴族文化の成果を広く国民に伝える役割を果たし、それぞれの言語や歴史を重視する**国民文化の基礎を作った**。
- 資本主義の拡大、国民国家の成立を背景にした市民文化と近代諸科学の発展により、近代文化が発展した。



ルノワール

《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会》

# 19世紀のヨーロッパ文化：文芸潮流

## ① 古典主義

古代ギリシア・ローマ文化を理想とし調和のとれた美を追求した。

## ② ロマン主義

古典主義を否定し、中世や民族文化を称え、人間の感情・情熱・想像力を自由に表現する。

## ③ 写実主義・自然主義

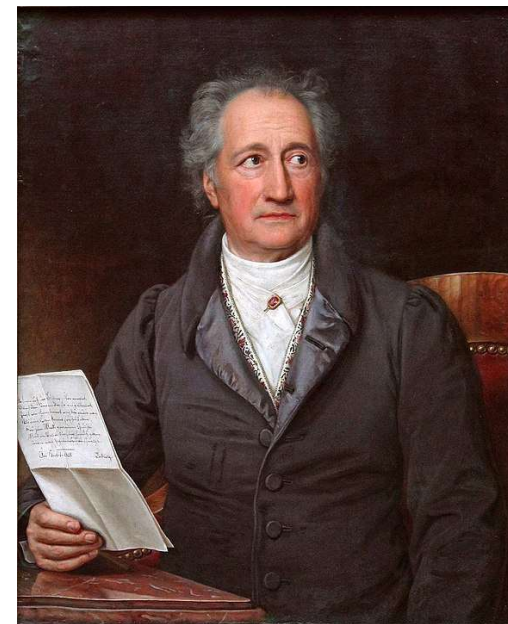
写実主義は人間や社会を直視し、現実をありのままに描き、自然主義はそこから進み社会の矛盾や人間の悪を描いた。

## ④ 世紀末

写実主義・自然主義への反動から文学では象徴主義・耽美主義が、絵画では印象派が生まれた。

# 19世紀のヨーロッパ文化：文学

- **ゲーテ**（古典主義：『ファウスト』）
- **ハイネ**（ロマン主義：『歌の本』）
- **ユーゴー**（ロマン主義：『レ＝ミゼラブル』）
- **プーシキン**（ロマン主義：『大尉の娘』）
- **ドストエフスキー**（写実主義：『罪と罰』）
- **モーパッサン**（自然主義：『女の一生』）
- **トルストイ**（写実主義：『戦争と平和』）
- **ワイルド**（世紀末文学：『サロメ』）



ゲーテ

# 19世紀のヨーロッパ文化：美術

- **ダヴィッド／アングル**（古典主義：略）
- **ドラクロワ**（ロマン主義：『民衆を導く自由の女神』）
- **ミレー**（写実主義：『落穂拾い』）
- **モネ**（印象派：『睡蓮』）
- **セザンヌ**（ポスト印象派：『大水浴図』）
- **ゴッホ**（ポスト印象派：『ひまわり』）
- **ロダン**（彫刻：『考える人』・『地獄門』）

# 19世紀のヨーロッパ文化：音楽

## • 古典主義

1. ベートーヴェン
2. モーツァルト

## • ロマン主義

1. シューベルト
2. ショパン

## • 印象派

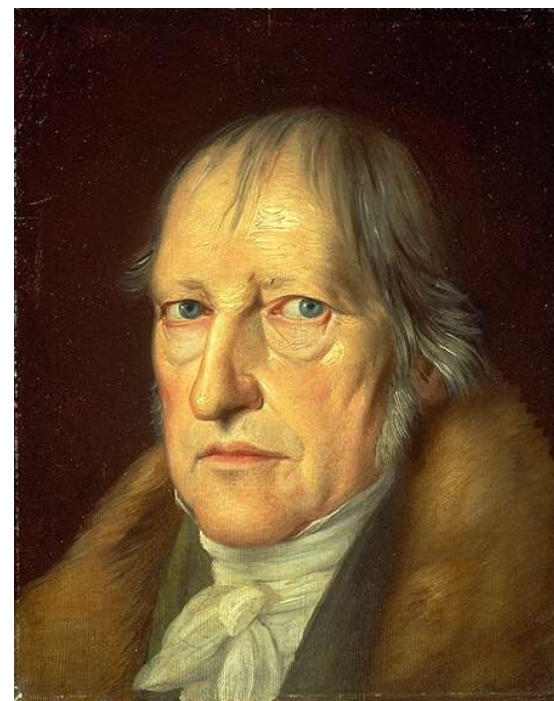
1. ドビュッシー



ベートーヴェン

# 19世紀のヨーロッパ文化：哲学

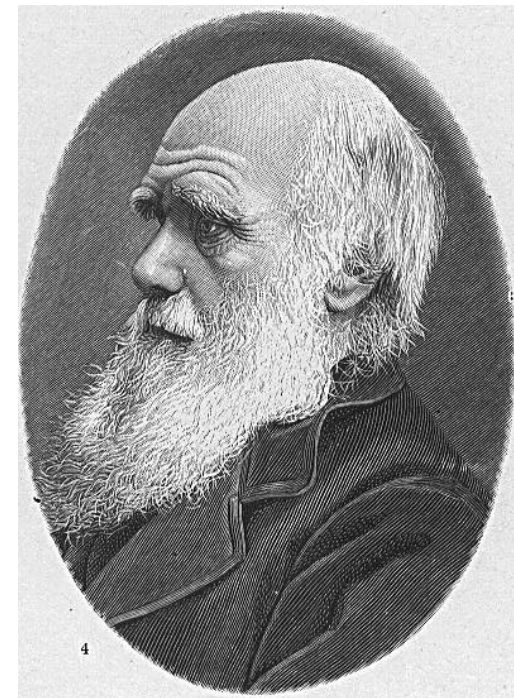
- **ヘーゲル**（ドイツ観念論：「弁証法」）
- **マルクス**（唯物論／社会主義）
- **ベンサム/ミル**（量的/質的功利主義）
- **コント**（実証主義）
- **キルケゴール**（実存主義：『死に至る病』）
- **ニーチェ**（実存主義：「神は死んだ」）
- **ショーペンハウアー**（『意志と表象としての世界』、『読書について』）



ヘーゲル

# 19世紀のヨーロッパ文化：社会科学・自然科学

- 社会科学
  1. **マルクス**（マルクス経済学）
  2. **ランケ**（史料批判に基づく近代歴史学）
- 自然科学・工学
  - **ファラデー**（電磁気学）
  - **キュリー夫人**（ラジウムの発見）
  - **ダーウィン**（進化論）
  - **ノーベル**（ダイナマイトの発明など）



ダーウィン



# 本日の内容

- 世界史：ウィーン体制のヨーロッパ
- 世界史：19世紀のヨーロッパ文化
- **美術史：ロマン主義・写実主義**

# ロマン主義・写実主義：CONTENTS

- ① 概略
- ② ロマン主義絵画Ⅰ：災厄・戦争
- ③ ロマン主義絵画Ⅱ：新たな風景画
- ④ ロマン主義絵画Ⅲ：幻視・宗教・過去
- ⑤ コラム：日本のロマン主義について
- ⑥ レアリズム絵画

# ロマン主義：概略

- 美の基準はギリシア・ローマ美術のみであるとする新古典主義に対抗するように台頭したのが**ロマン主義**であった。
- **個々人の感情・個性・自由を尊重し**、感受性や主観に重きを置いたことが最大の特徴である。
- そのため特定の様式に固定されるものではなく、主題も様々であった。しかし、ナショナリズムの高まりから、美術様式は各国の歴史と風土に根ざしたものとなっていく。



ジェリコー 《メデューズ号の筏》

# ロマン主義絵画 I : 災厄、戦争

- フランス革命以降ヨーロッパ社会を覆った**戦争や内乱**は極限状態にある人間の姿を浮き彫りにし、その群像劇はロマン主義に多くの実りをもたらした。
- 「災厄・戦争」というジャーナリズム的な主題を描いた主な画家として**ジェリコー、ドラクロワ、ゴヤ**が挙げられる。



ジェリコー

《戦場から去る負傷した胸甲騎兵士官》

# テオドール・ジェリコー

- フランスの画家である**ジェリコー**はロマン主義の先駆的存在であり、1816年に起きたメデューズ号の難破事件を題材にした大作を描き上げて論議を呼んだ。
- この他にも彼は現実社会の描写に深い関心を示し、**非古典主義的なテーマを開拓**した。
- 代表作は『**メデューズ号の筏**』である。



ジェリコー 《メデューズ号の筏》

# ウジェーヌ・ドラクロワ(1)

- ジェリコーが新時代の美意識のマニフェストだとすれば、**ドラクロワ**はその完成者であった。
- 彼は当初ダンテ『神曲』など、**文学作品の絵画化**を得意にしていたものの、ギリシア独立戦争（1821～32）を契機として**時事的問題に取り組む**ようになった。
- 代表作は『**キオス島の虐殺**』 『**民衆を導く自由の女神**』である。



ドラクロワ 《キオス島の虐殺》

# ウジェーヌ・ドラクロワ(2)



ドラクロワ 《民衆を導く自由の女神》

# フランシスコ・デ・ゴヤ

- スペインの**ゴヤ**はもともと宮廷画家で華麗な色彩を得意としたが、大病を患い聴力を失ってから**人間のグロテスクな一面を描く**ことが多くなった。
- 彼の代表作である『**マドリード、1808年5月3日**』はフランス軍によるスペイン市民の虐殺を描いたもの。
- 他に『**我が子を食らうサトゥルヌス**』 『**マハ**』も有名である。



ゴヤ 《マドリード、1808年5月3日》



## ロマン主義絵画Ⅱ：新たな風景画

- 19世紀は**風景画**の世紀ともいわれるが、他国に先駆けて産業革命が興ったイギリスでは都市化の反動から自然愛好の高まりも早く、多くの風景画が描かれた。
- 政治思想家バークは、無限かつ圧倒的な規模で人に畏怖の感情を惹起させるものを「**崇高**」と表現し「美」の対極に位置づけた。しかし、風景画家は「崇高」の**神性や超越性**に美を見出し、壮大な自然を描いた。



ターナー 《ミノタウルス号の難破》

# J・M・ウィリアム・ターナー(1)

- ロマン主義の風景画家として真っ先に名前が挙がるのはターナーとコンスタブルの二名であるが、バルビゾン派の功績も無視できない。
- ターナーは大気と水、光が織りなす自然現象を自在に表現する描写力と、そこから引き出される主題の多様さによって名声を築いた。
- 代表作は『雨、蒸気、速度』、『解体されるために最後の停泊地に曳かれてゆく戦艦テメレール号』などである。



ターナー 《解体されるために最後の停泊地に曳かれてゆく戦艦テメレール号》

## J・M・ウィリアム・ターナー(2)



ターナー 《雨、蒸気、速度》

# ジョン・コンスタブル(1)

- ターナーと並び称される**コンスタブル**は19世紀イギリスを代表する風景画家である。
- 彼はターナーとは対照的に、**身近な自然を写実的に描いた**。写生に基づく制作態度と明るい色彩による彼の作品は後の絵画史を先取りするものであった。
- 代表作は『**乾草の車**』で、これは「**もっとも偉大で人気のあるイギリス絵画**」とも称される。



Stephendickson - 投稿者自身による著作物, CC 表示-継承 4.0,  
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=35447762>による

ダニエル・ガードナー

《ジョン・コンスタブル》

## ジョン・コンスタブル(2)



コンスタブル 《乾草の車》

# バルビゾン派(1)

- 人間のドラマが主要な関心であったフランスでは自然主義的な風景画の発達は他国に後れを取っていたが、1820年の半ば頃に発生した**バルビゾン派**が風景画や農民画を描いた。
- バルビゾン派の主な画家は**コロー**、**ミレー**、**ルソー**などであり、コローとルソーは**風景画**、ミレーは**農民画**によって知られている。



ルソー 《フォンテーヌブローの森の小屋》

## バルビゾン派(2)



コロー 《モルトフォンテーヌの思い出》

## ロマン主義絵画Ⅲ：幻視、宗教、過去

- **ハインリヒ・フュースリー**は想像力を羽ばたかせ、文学に取材して『**夢魔**』などの空想上の存在を描いた。
- また、ロマン主義の時代は啓蒙主義期から軽視され続けてきた**宗教性の復活**も特徴的であり、**ウィリアム・ブレイク**などがキリスト教神秘主義に基づく独自の創造神話を描いた。
- さらに、科学革命の物質主義の反動として**中世復興**が一部で起きた。  
(**ゴシック・リバイバル**や**ナザレ派**)



フュースリー 《夢魔》



# コラム：日本のロマン主義（1）

- 日清戦争（1894年）前後、西洋の影響を受けて日本でもロマン主義が盛んになった。
- 文学では島崎藤村や北村透谷、樋口一葉などが有名だが、絵画では藤島武二や青木繁が知られる。
- アーティゾン美術館に彼らの作品が多く収蔵されているので、関東住みの方は一度訪れてみてはと思います。大学生まで無料です！



藤島武二 《黒扇》  
(アーティゾン美術館蔵)

## コラム：日本のロマン主義(2)



青木繁 《海の幸》  
(アーティゾン美術館蔵)

# リアリズム絵画

- フランスの七月王政は復古政治を終わらせたものの、これはブルジョワ資本家による寡頭独占政治であり、貧困にあえぐ民衆は二月革命を引き起こし共和政を成立させた。
- この状況下において画家は**貧困を主題**とし、（歴史画とは対照的な）**「平凡な人々の平凡な行為」**に美を見出そうとした。代表的な画家は**クールベ**と**ミレー**である。



クールベ 《雪にかかった狐》  
（国立西洋美術館蔵）

# ギュスターヴ・クールベ(1)

- **クールベ**は第二次共和制が敷かれてから最初のサロンで村民の葬儀を壮大に描いた『**オルナンの埋葬**』を提出して物議をかました。
- また1855年の万博の際に私費で（世界初の！）個展を開き、万博に落選した作品（『**画家のアトリエ**』、『**オルナンの埋葬**』）を展示し戦闘的に写実主義を世に問うた。



クールベ 《絶望（自画像）》

# ギュスターヴ・クールベ(2)



ギュスターヴ・クールベ - 投稿者自身による著作物 撮影日: 2005年12月15日, CC 表示 2.5, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=1694257>による

クールベ 《オルナンの埋葬》

# ジャン＝フランソワ・ミレー(1)

- 前述したバルビゾン派のミレーは『種まく人』で頭角を現し、農村の生活をモチーフとする抒情的な作品世界を作り出した。
- しかし、農民を威厳ある姿で書くことは当時の社会主義者や共和主義者を勢いづかせるものであったため異論があった。
- 他の代表作は『落穂拾い』『晩鐘』である。



ミレー 《種まく人》

# ジャン＝フランソワ・ミレー(2)



ミレー 《落穂拾い》

# ジャン＝フランソワ・ミレー(3)



ミレー 《晩鐘》



# 本日のまとめ

- フランス革命とナポレオン戦争の反動として復古的な**ウィーン体制**が成立した。また、その反動として**七月革命**が起こり、さらにフランスでは**二月革命**が起き**共和制**が成立した。
- 新古典主義の反動として、個人の感情や想像力に重きを置く**ロマン主義**が興った。また、貧富の差への不満から現実世界に美を見出そうとする**写実主義**（**リアリズム**）が興った。



ドラクロワ 《民衆を導く自由の女神》

# 次回の内容

- 次回からは**印象主義、象徴主義、ポスト印象主義**について扱います。19世紀の後半は帝国主義の時代でありました。ここでは**資本家と労働者**という社会構造の上に比較的安定した社会が成立しており、資本家階級を中心に美術を含む文化芸術が展開されていきました。
- 関連ワード
- モネ『散歩、日傘をさす女性』
- ロダン『地獄の門』



モネ 《散歩、日傘をさす女性》